



第29回日本肘関節学会学術集会
モーニングセミナー

The 29th Annual Meeting of the Japan Elbow Society

肘関節手術に 必要な機能解剖

Clinical anatomy for surgery of the elbow

日時

2017年2月4日(土)

8:00-9:00

会場

ヒルトン東京お台場 第1会場

〒135-8625東京都港区台場1-9-1 TEL: 03-5500-5500

講師

今谷 潤也 先生

岡山済生会総合病院 整形外科診療部長

座長

長岡 正宏 先生

日本大学病院 病院長

日本大学医学部整形外科 教授

認定単位

日本整形外科学会専門医資格継続単位

[必須分野]

1. 整形外科基礎科学

9. 肩甲帯・肩・肘関節疾患

教育研修会スポーツ医単位(S)

} いずれか1単位

日本手外科学会教育研修単位 1単位

肘関節手術に必要な機能解剖

Clinical anatomy for surgery of the elbow

肘関節外科の領域は外傷性疾患のみならず、スポーツ・関節症性疾患、絞扼性神経障害、先天性疾患など非常に多岐にわたる上、運動器としての肘関節周囲の解剖は極めて複雑である。同関節の支持機構としては骨および軟骨からなる骨性構造と、筋、靭帯そして関節包よりなる軟部組織構造に二分される。これらはお互いに関連しあって機能しており、その解剖学的特徴や位置関係を知ることが正しい手術手技を実践するために必須である。本講演では、atraumaticで正確な肘関節手術を遂行するために必要な機能解剖について、臨床家の目線から見た特徴を中心に述べる。

まず骨性構造としては、上腕骨遠位端部、橈骨近位端部、尺骨近位端部の臨床上重要な形態学的特徴について述べる。またcomplex elbow instabilityの病態におけるkey structureとされる尺骨鉤状突起部の周辺解剖については東京医科歯科大臨床解剖学教室との共同研究の結果を中心に解説する。次に肘関節の軟部組織構造としては内側および外側側副靭帯複合体の特徴について述べる。すなわち二つの靭帯構造は深層に存在する狭義の靭帯構造と浅層の筋・筋膜構造との複合体として機能しており、その点については同部の組織学的検討を含めて述べたい。

以上のような解剖学的特徴に基づき、国内外で報告されている各種手術進入法や、主にterrible triad損傷での鉤状突起骨折とともに輪状靭帯や前方関節包などの前方構成要素の修復を行なうlasso techniqueなどについて、実際の症例を提示しながら、その適応やコツ、注意点などについて演者の考えを述べる。



今谷 潤也

いまたに じゅんや

岡山済生会総合病院
整形外科 診療部長

略歴

昭和63年3月 香川医科大学医学部医学科卒業
昭和63年4月 岡山大学医学部整形外科学教室
昭和64年1月 香川県立中央病院 整形外科
平成 2年8月 坂出市立市民病院
平成 4年6月 愛媛整肢療護園 整形外科 副医長
平成 6年5月 岡山済生会総合病院 整形外科
平成 9年5月 岡山済生会総合病院 整形外科 医長
平成 18年5月 岡山大学大学院 医歯学総合研究科(整形外科)
非常勤講師(兼任)
平成20年4月 岡山済生会総合病院 整形外科 主任医長
岡山大学大学院医歯学総合研究科(整形外科)
臨床准教授(兼任)
平成26年4月 岡山済生会総合病院 整形外科 診療部長
現在に至る

所属学会

Journal of Orthopaedic Science:
Editorial Board Member
Bone & Joint Research:
Reviewer Member
Clinical Anatomy:
Reviewer Member
国際手外科学会連合
日本手外科学会
日本肘関節外科学会
日本骨折治療学会
中部整形災害外科学会
岡山手外科研究会
岡山骨折研究会
山陽肩肘研究会
山陽NETカンファレンス 他